

2020 年度
事業報告

公益財団法人日本ナショナルトラスト

目次

I	現況	1
	1. 事業	1
	2. 役員	1
	3. 評議員	2
	4. 事務局	2
	5. 事業資金	2
II	理事会・評議員会	3
	1. 理事会	3
	2. 評議員会	4
III	事業実施の概要	5
	1. 調査事業	5
	2. 保護事業	5
	3. 普及事業	12
	4. ネットワーク事業	16
	5. 団体交流事業	16
	6. その他	18
IV	登記事項、届出・報告・申請事項、登録事項	20
参考	アドバイザー名簿、顧問名簿及び観光資源専門委員名簿	21

I 現況

1. 事業

定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- (1) 国民的財産として後世に継承するに足る観光資源の認定
- (2) 前号により認定された観光資源（以下「保護対象」という。）の取得及び管理運営
- (3) 観光資源に関する保護活動への支援
- (4) 観光資源に関する保護思想及び知識の普及向上
- (5) 観光資源に関する学術調査研究並びに情報の収集及び提供
- (6) 政府及び関係機関への観光資源の保護に関する建議又は陳情
- (7) この法人の健全な発展を図るために必要な関連事業の経営
- (8) その他目的を達成するために必要な事業

2. 役員

(1) 2021年3月31日現在の役員

会長	梅崎 壽	東京地下鉄(株)顧問
代表理事		
副会長	川村 恒明	(公財)文化財建造物保存技術協会顧問
代表理事		
理事長	大庭 靖雄	常勤
業務執行理事		
副理事長	木部 義人	(公財)日本ナショナルトラスト関西支部長
業務執行理事		
理事	小川 孝行	東京地下鉄(株)取締役
理事	苅谷 勇雅	元・文化庁文化財鑑査官
理事	久保田 穰	(公社)日本観光振興協会理事長
理事	阪本 未来子	東日本旅客鉄道(株)常務執行役員
理事	柴崎 信三	元・日本経済新聞社論説委員
理事	志村 格	(一社)日本旅行業協会理事長
理事	杉浦 雅也	東海旅客鉄道(株)執行役員営業本部長
理事	鈴木 雅和	筑波大学芸術系名誉教授
理事	高野 光司	(公財)日本交通公社理事
理事	武市 信彦	西日本旅客鉄道(株)執行役員総合企画本部副本部長
理事	福本 啓二	(一社)日本民営鉄道協会理事長

理事	降幡 賢一	日本エッセイスト・クラブ事務局長 (元・朝日新聞社編集委員)
理事	廻 洋子	敬愛大学特任教授
理事	森 まゆみ	作家
監事	今村 正	税理士
監事	佐藤 栄治	(公財)鉄道弘済会専務理事

3. 評議員

(1) 2021年3月31日現在の評議員

評議員	大西 孝夫	元・(一財)休暇村協会理事長
評議員	黒野 匡彦	(一財)運輸総合研究所顧問
評議員	清野 智	(独)国際観光振興機構理事長
評議員	曾我 健	元・(公財)NHK交響楽団理事長
評議員	高橋 広行	(株)JTB代表取締役会長
評議員	堤 哲	元・毎日新聞編集委員
評議員	伏屋 和彦	元・会計検査院長(元・国税庁長官)
評議員	森地 茂	政策研究大学院大学客員教授 名誉教授

4. 事務局

2021年3月31日現在の職員 5名

5. 事業資金

本財団の事業資金は、事業賛助団体からの寄付金並びに個人および団体からの会費等による。

Ⅱ 理事会・評議員会

1. 理事会

- (1) 第1回理事会 2020年5月21日
開催方法 決議の省略の方法
決議事項 2019年度事業報告及び決算報告、顧問の選任、諸規程の改定、定時評議員会の提出議題について
報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行の状況の報告、2020年度第2回理事会の開催
出席等 提案書に対し、理事19名全員の書面による同意の意思表示及び監事2名全員からの書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。
- (2) 第2回理事会 2020年6月5日
開催方法 決議の省略の方法
決議事項 代表理事（会長及び副会長）及び業務執行理事（理事長及び副理事長）選定について
出席等 提案書に対し、理事18名全員の書面による同意の意思表示及び監事2名全員からの書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。
- (3) 第3回理事会 2020年12月4日
開催方法 決議の省略の方法
決議事項 旧モーガン邸譲渡契約の締結及び評議員会をみなし決議で行う件について
出席等 提案書に対し、理事18名全員の書面による同意の意思表示及び監事2名全員からの書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。
- (4) 第4回理事会 2021年3月25日
開催方法 決議の省略の方法
決議事項 2021年度事業計画及び収支予算、2021年度補助金等の交付申請、特定資産の取崩、顧問の選任、定時評議員会及び諸規程の改定の招集について
報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告、2021年度第1回理事会の開催について

出席等 提案書に対し、理事 18 名全員の書面による同意の意思表示及び監事 2 名全員からの書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

2. 評議員会

- (1) 定時評議員会 2020 年 6 月 5 日
開催方法 決議の省略の方法
決議事項 2019 年度事業報告及び決算報告、評議員の選任、理事の選任、監事の選任について
報告事項 2020 年度事業計画及び収支予算、2019 年度第 2 回、第 3 回及び 2020 年度第 1 回理事会の決議事項について
出席等 提案書に対し、評議員 8 名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、評議員会の決議があったものとみなされた。
- (2) 臨時評議員会 2020 年 12 月 15 日
開催方法 決議の省略の方法
決議事項 旧モーガン邸譲渡契約の締結について
出席等 提案書に対し、評議員 8 名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、評議員会の決議があったものとみなされた。

Ⅲ 事業実施の概要

本年度は、年度を通じて、新型コロナウイルス感染症の影響を被り、保護資産の公開利用が制限されたり、保護管理委員会の開催や、ボランティアとの交流活動が計画通りに進まないといった様々な影響が出た。そのような中であっても、下記に示すように、当財団（以下、JNT）は、工夫を凝らしながら役職員が一丸となって事業の推進に取り組んだ。

1. 調査事業

(1) 受託調査

① 「文化財保存活用地域計画策定業務」

2019年度に引き続き、石川県輪島市から受託して「文化財保存活用地域計画策定業務」を行った。5月1日に契約を締結(受託金額4,997,300円/税込)。この業務は、輪島市文化財保存活用地域計画作成等協議会の活動を、JNTが事務局支援を行う形で進めた。8月28日の第4回協議会では、計画の理念と方針案、関連文化財群案を提示した。また、町野地区にて実施している住民ヒアリング調査の結果を報告した。11月27日の第5回協議会では、関連文化財群のストーリー案、保存活用地域計画の設定案、保存活用の措置案を提示した。町野地区で実施したワークショップの報告もおこなった。3月11日の第6回協議会では、引き続き計画の理念や方針、関連文化財群とストーリー、保存活用区域の設定、保存活用の措置について考え方を提示した。さらに、2021年度に作成する計画書の内容の検討を進めた。新型コロナウイルス感染拡大を防止するため本協議会は石川県外の委員および事務局はオンライン参加となった。3月19日には文化庁と輪島市との協議に参加し、輪島市文化財の保存と活用のマスタープランおよびアクションプランの内容の方向性について指導を受けた。

* 輪島市委託事業

2. 保護事業

(1) 文化財取得保護計画に基づく保護事業

① 白川郷合掌造民家の修復と管理運営（岐阜県白川村）

白川郷合掌文化館（旧松井家）・旧寺口家管理運営委員会を8月3日付で書面にて開催し、前年度の事業報告と本年度の事業計画について了承を得た。例年10月に開催される白川村荻町祭礼（どぶろく祭り）にはJNT職員が参加してきたが、本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため祭礼が中止となった。1月に大雪に見舞われ、旧寺口家の除雪が通常のやりかたでは追いつかなかったため、業者に委託した。この費用に充てるため、「白川郷雪下ろし募金」を3月1日～4月30日の期間で実施している（目標金額60万円）。

白川村は、総合戦略等の計画に基づく事業の実施に、株式会社リトルクリエイティブセンター（LCC）の協力を得ることになった。LCCと白川村の要請を受け、LCCが白川郷合掌文化館（旧松井家）を利用してその活動を行うことを認め、白川村を立会人としてJNTとLCCとの間で3月1日付で覚書を締結した。

《管理運営委員会の構成》

和田正人・白川郷荻町集落の自然環境を守る会会長、大田忠広・JNT白川ボックス代表、和田茂・JNT白川ボックス事務局、川田裕・白川村老人クラブ長生会会長、宮丸和之・白川村教育委員会教育長、安藤邦廣・筑波大学名誉教授、JNT 他

*旧松井家 貸館0件

②動態保存車両（トラストトレイン）の運行と修繕（静岡県大井川鐵道）

トラストトレインの運行は、全5回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症等のため4回が中止となった。そのうち7月4日（第3回）は、悪天候の影響で線路が不通となり列車が運休となったため、運行日活動の参加者と現地でミーティングを行った。そのほか、ボランティアミーティングを2回開催し、トラストトレインの魅力伝え協力者を増やすための方策として、Instagramの開設などを検討した。蒸気機関車C12の動態復元については、引き続き大井川鐵道株式会社と調整を行った。2月に大井川鐵道株式会社との運営会議を書面にて開催し、2020年度の活動報告と2021年度の活動計画等について協議を行った。

<運行日活動>7月4日（7名）

③名勝旧大乘院庭園保存整備と管理事業（奈良県奈良市）

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により恒例となっていた「観月の夕べ」の開催を中止した。また、「なら燈花会」「珠光茶会」などの公的な行事の受け入れや「関西文化の日」のイベントへの参画などを中止した。他方、Go Toキャンペーンの影響により8～12月の入園者数が大幅に増加し、1年間の入園者数は前年度と比べ約21%増加した。3月15日に保護管理委員会を書面開催し、前年度及び本年度の事業内容を報告した。3月19日には管理協議会をメール開催し、管理活動や保存修理事業に関する実施報告および計画について協議を行った。そのほか、JR西日本、奈良ホテルとの連携企画として、奈良ホテルのランチと名勝旧大乘院庭園への入園をパッケージにした商品（「駅プラン」）が販売された（発売期間3月15日～11月30日）。

《保護管理委員会の構成》

尼崎博正・京都芸術大学教授（JNT観光資源専門委員）、松村恵司・奈良文化財研究所所長・JNT 他

* 入園者数 16,144 名(公開日数 259 日)、 ロケーション利用等 43 件

* 奈良県及び奈良市補助事業

④東京都指定名勝旧安田楠雄邸庭園の修理・修繕と管理活用事業（東京都文京区）

10月9日に保護管理委員会を書面開催し、前年度の事業報告を行った。本年度の事業計画において、保存活用計画更新に関する「旧安田楠雄邸庭園に対する JNT の方針」を明記した。庭園では定期剪定を実施した。管理活用の面では1~3ヵ月に1回程度の活用ワーキング会議を開催した。また特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会（通称：たてもの応援団）や専門家と協議しつつ五節句行事等のイベントの実施や撮影等の貸館対応などによる活用に努めた。東京文化財ウィーク（事務局：東京都教育委員会）のほか、東京の日本庭園おもてなし協議会（事務局：東京都建設局）による東京いい庭キャンペーンへの参画など自治体による文化的活動にも協力した。このように、様々な主体と連携し、管理活用を行った。

《保護管理委員会の構成》

井手久登・東京大学名誉教授（JNT 観光資源専門委員）、樋渡達也・前文化財指定庭園保護協議会会長、河東義之・小山工業高等専門学校名誉教授、内田青蔵・神奈川大学教授、服部勉・東京農業大学教授・JNT 他

* 一般公開 2,688 名（公開日数 75 日、1 ヶ月あたりの入館者数は、前年度比 30% 減）、貸館・団体見学・映像・写真撮影等 51 件

⑤京都市指定文化財駒井家住宅の修復と管理活用事業（京都府京都市）

7月20日に保護管理委員会を書面開催し、前年度の事業内容と本年度の事業計画について了承を得た。修復事業については、来館者の満足度向上やこれまで以上の庭園活用に向けて、2019 年度に作成した計画に沿って屋外排水工事を行った。保護管理委員会・尼崎委員の指導のもとに行われた本工事は京都市の「京都を彩る建物や庭園 修理工事等補助金制度」の適用を受けた。そのほか、臨時休館をきっかけとして、マネージャーとボランティアが協力して初めての試みである「テレボランティア」を行った。これは、これまでの調査で蓄積された駒井家に関する情報を SNS 上で配信し、新型コロナの収束後の入館者数増を目指したものである。この活動の成果は、9月18日~20日に実施した秋の特別展示で公開した。なお、10月1日に京都芸術大学の造園実習を受け入れ、尼崎教授の指導のもとで学生が剪定等を行った。

《保護管理委員会の構成》

山形政昭・大阪芸術大学名誉教授、尼崎博正・京都芸術大学教授（JNT 観光資源専門委員）、松井正文・京都大学名誉教授、三村浩史・京都大学名誉教授（JNT 観光資源専門委員・JNT 他

*京都市補助事業

*一般公開 391 名（公開日数 43 日）、貸館・団体見学・映像・写真撮影等 13 件

⑥旧モーガン邸の管理事業（神奈川県藤沢市）

旧モーガン邸を適切かつ安全に管理し、地域活性化に役立てる観点から、JNT と特定非営利活動法人旧モーガン邸を守る会による活用を今年度も継続して実施した。守る会との管理委託契約に基づき、月 1 回の庭園公開とイベントを実施してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための藤沢市の調整方針に鑑み、4 月～8 月と 2 月の庭園公開とイベントを中止した。日常の維持管理については、管理委託契約に基づき、守る会が 1 か月に 1 回の清掃ボランティア活動を継続的に実施した。また、前年 10 月の台風 19 号により被害のあった温室や小屋、主屋覆い屋の防護ネットの修理を行った。旧モーガン邸の管理および保存方法については、かねてより関係各所と協議を行い、検討を重ねた結果、12 月に当財団の理事会、評議員会の議決を得て、旧モーガン邸の土地、付属物等を、旧モーガン邸の復活を計画している（公社）横浜歴史資産調査会に譲渡することとなった。3 月 23 日には、同調査会と譲渡契約を締結し、登記等の諸手続きを完了した。なお、譲渡に伴い、保護管理委員会は解散した。

《保護管理委員会の構成》

井手久登・東京大学名誉教授（JNT 観光資源専門委員）、吉田鋼市・横浜国立大学名誉教授、亀山章・東京農工大学名誉教授、大野敏・横浜国立大学院教授、水沼淑子・関東学院大学名誉教授、菅孝能・山手総合計画研究所取締役会長・JNT 他

⑦文化財取得保護計画募金計画の継続

文化財取得保護計画における募金計画の成果を受けて、各保護資産においてさらに利活用を目指した修復を実施するために、経済界および関係諸団体、会員などに対し広く呼びかけを行い、募金活動を推進した。

（2）その他の保護事業

①天心遺跡記念公園及び天心墓地の保護管理（茨城県北茨城市）

天心遺跡記念公園においては、定期的な除草、清掃作業を行った。また、天心墓地では、除草作業と月 2 回の点検及び供花を行った。例年 3 月に実施している保護管理委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面で開催した。本年度の事業報告と次年度の事業計画について了承を得た。

《保護管理委員会の構成》

豊田稔・岡倉天心偉績顕彰会会長、小泉晋弥・茨城大学名誉教授、関弘和・茨城県立天心記念五浦美術館館長・JNT 他

* 北茨城市補助事業

②ED70 形 1 号交流電気機関車の保護管理 (滋賀県長浜市)

西日本旅客鉄道(株)寄贈の ED70 形 1 号交流電気機関車について長浜市民やボランティアによる保護管理を行い、広く一般に公開している。

③巻機山の景観保全 (新潟県南魚沼市)

景観保全活動として、例年東京農業大学と連携し、夏と秋に植生復元ボランティア活動として種子採取・播種・階段造り・土砂客土作業などを実施してきたが、本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から活動を見送った。

④東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクトの実施

支援対象見学会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大状況に鑑み見送った。本年 3 月に震災から 10 年という節目の年を迎え、事業の総括を行うべく準備を進めた。

(3) ヘリテイジセンターの管理運営

①葛城の道歴史文化館の管理運営 (奈良県御所市)

葛城の道散策マップや街道の神社・仏閣に関する資料、伝統行事の写真などが展示されており、葛城古道を散策するための情報拠点となっている。また、館内には休憩所とともに、集会所を備え、住民と来訪者が交流し、歴史を活かしたまちづくりや歴史環境の保全について考える場としても活用されている。

(入館者数 7,168 名)

②飛騨の匠文化館の管理運営 (岐阜県飛騨市)

飛騨の匠文化館では国内外の学生との交流が活発であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年恒例の交流イベントは中止となった。その一方で、6 月 19 日～7 月 31 日まで岐阜県高山市・飛騨市・白川村で実施された「飛騨お目覚め宣言～あんしんの旅」キャンペーンの一環として入館料を無料とし、また、飛騨市観光協会発行の「ごちそうさまっぷ」スタンプラリーの景品に飛騨の匠文化館の商品が選ばれるなど、地域の観光振興に寄与する取り組みを実施した。さらに、今後のインバウンド向け観光客対応策として翻訳機「ポケトーク」を導入し、効果的な使用法を検討している。4 月 8 日から 5 月 31 日、1 月 25 日から 2 月 26 日までの平日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館した。

(入館者数 4,260 名)

③白川郷合掌文化館（旧松井家）の管理運営（岐阜県白川村）

白川村在住の JNT 会員からなる白川ボックスと管理業務委託契約を締結しており、日常点検や清掃、軽微な修理、屋根のメンテナンス等を実施した。7月17日には白川ボックス総会を開催し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、白川郷合掌文化館（旧松井家）の夏季の一般公開を中止することを決定した。

(入館者無し)

④名勝大乗院庭園文化館の管理運営（奈良県奈良市）

恒例となっている「観月の夕べ」や「なら燈花会」等は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、文化講演会「旧大乗院庭園の土器陶磁器」や庭園講座は人数を制限して実施した。また、展示スペースにおいて「二十四節気書画展」、杉岡華邨書道パネル展示「華邨が書く茂吉の世界」、奈良市美術館出張展示、入江泰吉出張写真展などを開催し、好評を得た。4月10日から6月1日まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館した。

(入館者数 32,525 名)

⑤長浜鉄道文化館の管理運営（滋賀県長浜市）

長浜市および(公社)長浜観光協会により、年間を通じて長浜の鉄道史を紹介するなど、歴史を活かしたまちづくりの拠点としての役割を發揮した。6月に長浜鉄道文化館に隣接する旧長浜駅舎を含めた鉄道遺産が「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄道のキセキ～」として日本遺産に登録された。その記念として「祝日本遺産認定記念展示」とともに「北陸本線の鉄道模型展示」、「鉄道写真家“清水薫”追悼写真展滋賀・琵琶湖を巡る鉄道写真風景」(7月11日～12月28日)が開催された。また、「関田克孝コレクション 子供たちの見た東海道線の旅～絵本、図鑑でたどる100年～」(2月27日～5月31日)が開催されるなど、様々な視点から鉄道への理解を深める企画展示が行われた。老朽化による外壁修繕のため、(一財)日本宝くじ協会へ助成金の申請を行ったが、結果は不採択であった。4月14日から5月12日まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館した。

(入館者数 34,132 名) *長浜スクエアとしての入館者数

⑥琴引浜鳴き砂文化館の管理運営（京都府京丹後市）

新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、入館者数を制限したほか貝殻等を使ってキャンドルや万華鏡を作る手作り体験の参加者の人数制限を行った。日本や世界の鳴き砂の展示や世界各地からの漂着物などの常設展示のほか、企画展として

「漂着物回収処理展」(9月16日～10月31日)や「丹後フォトクラブ写真展」(1月9日～2月27日)が開催された。また、市内の小学生の特別授業「大地の学習」が開催され、地元の子供たちの学習の場として活用された。東海道新幹線車内誌「ひととき」(2021年2月号)で琴引浜鳴き砂文化館の紹介記事を掲載いただいた。さらにホームページやフェイスブックを通して年間130回以上、文化館や琴引浜について情報発信を行うなど精力的な広報活動を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月9日から5月31日まで休館した。

(入館者数 6,055 名)

⑦北陸線電化記念館の管理運営 (滋賀県長浜市)

D51形蒸気機関車とED70形1号交流電気機関車を通年内部公開するとともに、交流電化の歴史資料等のパネルを展示した。老朽化による外壁修繕のため、(一財)日本宝くじ協会へ助成金の申請を行ったが、不採択となった。4月14日から5月12日まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館した。

(入館者数 34,132 名) *長浜スクエアとしての入館者

⑧村上歴史文化館の管理運営 (新潟県村上市)

歴史を活かしたまちづくりの拠点としての役割を発揮し、今年度は市内遺跡のうち縄文時代を中心とした出土品の展示「市内遺跡出土品展～村上の縄文土器～」(12月5日～2月21日)や、恒例となった「城下町村上に伝わるひな人形展」(2月27日～4月4日)が開催された。3月5日から5月24日まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館した。

(入館者数 8,772 名)

⑨四国鉄道文化館の管理運営 (愛媛県西条市)

近年新たに建設された四国鉄道文化館南館と十河信二記念館、観光交流センターとともに形成される「鉄道歴史パーク in SAIJO」として、地域の賑わいの拠点となっている。四国鉄道文化館北館に展示されている0系新幹線の掃除体験・勉強会「0系ぷらす」やミニSL乗車会等の体験イベントは新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止となったが、時期をみて少人数で実施したものは好評であった。また、企画展示として「館長お勧め!鉄道えほん展」や「増田浩三コレクション鉄道模型展」が行われたほか、昨年度JNT個人会員から寄贈された資料が今年度も企画展で公開された。4月18日から5月24日まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館した。

(入館者数 30,341 名)

3. 普及事業

(1) JNT 設立 50 周年記念事業 記念冊子の制作

財団設立 50 周年を記念して、記念冊子を制作した。JNT50 年のあゆみと今後についてわかりやすくまとめており、当財団の活動に対する理解を深めるツールとして活用される。

【体裁】 B5 版、44 ページフルカラー

【部数】 1000 部

【内容】 保護資産の管理や運営に関わる「人」の思いをインタビュー形式でつづる第一章と財団 50 年のあゆみとこれからの日本型ナショナル・トラスト像を考える第二章で構成

【発行】 (公財) 日本ナショナルトラスト

【編集・取材協力・デザイン】 合同会社ハチコク社

【配布対象】 会員、事業協力者、国、地方公共団体、学識経験者及びオピニオンリーダー等

(2) 会員事業

① 見学会・催し物等の開催

(ア) トラストトレイン

・ トラストトレイン運行日およびボランティア参加者数

4 月 11 日中止、6 月 6 日中止、7 月 4 日 (7 名)、8 月 22 日中止、9 月 26 日中止

※8 月 22 日は親子ボランティアを予定していた。

・ 12 月の大掃除等ボランティア活動中止

(イ) 旧安田楠雄邸庭園

※2020 年 4 月および 5 月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

・ 主催イベント

10 月 24 日・・・語りと音楽「圓朝花火」

2 月 27~3 月 3 日、6 日、10 日、13 日、17 日・・・上巳の節句

3 月 28 日・・・しだれ桜と琵琶の音

・ 協カイベント

11 月 4 日、7 日、11 日、14 日・・・東京文化財ウィーク(嫁入り道具展示・仏間公開)東京都教育委員会主催

11 月 21 日、25 日、28 日、12 月 2 日、5 日、9 日・・・東京いい庭キャンペーン(園路開放)東京都建設局主催

12月15日～20日・・・文京ミューズフェスタ（写真展示）文の京ミュージアムネットワーク主催

（ウ）駒井家住宅

※2020年4月および5月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

・主催イベント

9月18日～9月20日・・・秋の特別展示「テレボランティア活動の紹介」

②会員活動の支援

会員の自主的な活動に対して、様々な支援を行った。

（ア）地域活動

白川ボックス／ヘリテージセンター白川郷合掌文化館の開館・建物維持管理

4月7日・・・・・・・・・・雪囲いはずし

5月17日・・・・・・・・・・棟つつみ

7月17日・・・・・・・・・・清掃、総会

7月27日・・・・・・・・・・清掃

8月・・・・・・・・・・夏季開館 ※中止

11月12日・・・・・・・・・・雪囲い

1月～2月・・・・・・・・・・雪降ろし

（イ）サークル活動

民家・町並みサークル／サークルニュース発行等

社会的状況やサークル内のさまざまな課題に鑑み、活動内容の見直しを検討した。今後は、情報発信（メーリングリスト及びFacebook等）を中心に行う形で活動を継続することとなった。

③会員増加キャンペーンの実施

関連団体及び企業の協力により、入会申込書の配布や設置、ポスター掲出等を行い、入会促進に努めた。また、期間限定で以下のキャンペーン等を行った。

（ア）設立50周年入会金無料キャンペーン

4月1日から11月30日までに入会した方を対象として入会金無料及び会報のバックナンバー無料のキャンペーンを行い、積極的にPRした。

（イ）初年度会費無料キャンペーン

1月1日から3月31日までに入会した方を対象として初年度会費及び入会金を無料にするキャンペーンを実施した。

(ウ) プラスワンキャンペーン

4月1日から5月31日まで会員の紹介者に対して入会金無料及び会報のバックナンバー無料のキャンペーンを行い、積極的にPRを行った。

(3) 広報事業

①会報「日本ナショナルトラスト報」の発行・配布（隔月刊）

年間6回の発行で紙面の充実した会報作りを行っている。会員へ配布するとともに、事業協力者へも広く頒布し、ナショナル・トラスト活動の普及に努めた。なお、538号と539号は、新型コロナウイルスの影響でイベント等の中止が相次ぎ、適切な情報発信が困難となったため、合併号とした。

<体裁>B5 16頁 <発行部数>2,500部（542号より2,100部に変更）

<通巻>537号～542号

537号（5月1日発行） 特集「輪島市文化財保存活用地域活用計画の進捗」

538/539号（9月1日発行） 特集「新型コロナウイルスと向き合う 新しい日常へ」

540号（11月1日発行） 特集「最近の文化財の保護活用の動き」

541号（1月1日発行） 特集「新しい旅のエチケット ウィズコロナ時代を生きる」

542号（3月1日発行） 特集「地域遺産に光を当てる 皆さんの取り組み」

②メールマガジンなどの普及宣伝ツールの充実

新型コロナウイルスの影響でイベント等の中止が相次ぎ、適切な情報発信が困難となったため、2020年4月よりメールマガジンは不定期で配信した。会員および事業協力者へのタイムリーな情報発信を図るほか、ナショナル・トラスト活動の普及に努めた。（登録者数 約560名）

③関係団体の広報協力

トラストトレインについては、地下鉄博物館（東京都江戸川区）にJNTとトラストトレインのパンフレットおよび維持修復を呼び掛ける募金箱を設置していただいている。駒井家住宅及び旧大乘院庭園については、JR西日本や叡山電鉄から継続的に広報協力を得ており、保護資産及びプロジェクトを通じ、広くJNTの紹介を行っていただいた。さらに、JR東海及びJR西日本の協力により、東海道新幹線車内誌「ひととき」（2021年2月号）でヘリテイジセンター「琴引浜鳴き砂文化館」にスポットを当ててJNTの紹介をしていただき、大きな反響があった。また、一般社団法人日本交通協会の機関紙「汎交通」（2020年度Ⅱ号）で、JNTの鉄道保存活用の取り組みが紹介され、交通業界の関心を集めた。

(3) その他普及事業

①地域遺産支援プログラムの実施

地域遺産を支援するための事業のコンセプト等を検討するワーキングを立ち上げ、外部からの協力を得て、様々な検討を行っている。本年度は、白川村と山梨県甲州市上条集落で事業を実施した。

(ア) 岐阜県白川村

白川村と協働で茅刈りを行う「われらが紡ぐ白川郷かややねプロジェクト～秋の一斉茅刈り～」を2015年度から実施しており、村内における茅の自給率向上を目指している。今年度の茅刈りイベントは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一般参加者募集は行わず、11月14日に白川村民のみで実施された。当日は42名の参加があり、約700束を刈り取った。東京で茅刈りイベントの企画内容を検討する場「かややね会議」は、今年度はオンラインで開催した。その他にも10月28日に「和歌山大学むすび屋弥右エ門茅葺きプロジェクト」のメンバーとの交流会や、11月11日、12日に「かややねフェス2020」と題し、「お菓子で合掌造民家を作ろう!」と「好きな茅写真を語ろう!」の2つの企画(のべ参加者29名)をオンラインにより行った。また、2月14日に横浜市歴史博物館主催の「かやぶき屋根プロジェクトシンポジウム かやの活用とこれから」に参加し、「われらが紡ぐ白川郷かややねプロジェクト」の取り組みを発表した。シンポジウムは無観客で録画され、横浜市歴史博物館のyoutubeチャンネルで配信された。

(イ) 山梨県甲州市上条集落

過去に観光資源保護調査を実施した山梨県甲州市上条集落で協働事業を行っている。これまで上条を活性化する会の定例会に参加し、会議のファシリテーターやデータ活用など事務局支援を行ってきた。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で定例会への参加は難しい状況であったが、11月3日に開催された収穫祭には参加して、当日運営サポートなどを行い、地域と共に活性化に取り組んだ。

②他団体主催イベント等への後援

- ・「一般財団法人江戸東京歴史文化ルネッサンス設立3周年記念 江戸城全体整備構想の策定並びに都市東京の歴史文化まちづくりを目指して」シンポジウム・パネルディスカッション

共催：一般財団法人江戸東京歴史文化ルネッサンス・一般社団法人日本イコモス
国内委員会

後援名義期間：2020年8月24日～10月18日

- ・「第43回全国町並みゼミ桜川市真壁大会」
主催：特定非営利活動法人全国町並み保存連盟
後援名義期間：2020年11月2日～11月22日

⑧情報発信

ウェブサイト等を積極的に活用し、会員やJNTに関心のある層への情報発信に努めた。ウェブサイトは随時修正を行い、フェイスブックも最低1週間に一度は更新するようにした。会員の皆さまと双方向でつながることができ好評を得ており、現在、約600人がフォローしている。

4. ネットワーク事業

- (1) 「全国鳴砂ネットワーク」への参加
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年度の総会は書面で開催された。
- (2) 「湘南邸宅文化ネットワーク協議会」への参加
会員として参画し、協力を続けてきたが、関連する保護資産である旧モーガン邸を譲渡したため、本年度末をもって退会した。
- (3) ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年度の総会は書面で開催された。
- (4) 全国近代化遺産活用連絡協議会
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年度の総会は書面で開催された。

5. 団体交流事業

文化財や自然環境の保護・保全を目的とする各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を行った。また、国内の諸団体や海外のナショナル・トラストをはじめとする環境保全団体等と交流を行い、情報収集に努めた。

- (1) 国内交流事業
 - ①国内保護団体との連絡連携及び情報の交換
 - (ア)文化財指定庭園保護協議会

総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止となり、書面で開催された。

(イ) 歴史的景観都市協議会

本年度の協議会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。

(ウ) 全国町並みゼミ

「第43回全国町並みゼミ桜川市真壁大会」の後援を行った。

(エ) 全国伝統的建造物群保存地区協議会

本年度の協議会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった

②文化遺産信託研究会の設立に協力

駒井家住宅と相互入場協定を締結している認定特定非営利活動法人 アメニティ2000 協会が設立準備委員会代表となり、日本におけるナショナル・トラスト活動をさらに推進するため、発足した文化遺産信託研究会に会員として加盟し、情報交換などに努めた。

③登録を行っている諸団体

(公社)京都市観光協会、(公社)国際観光施設協会、(公社)日本観光振興協会、(一社)日本茅葺き文化協会、(公財)日本交通公社、一水会(観光関係団体懇談会)、京都市内博物館施設連絡協議会、文化財保存全国協議会、文化財指定庭園保護協議会、産業考古学会、鉄道友の会、日本鉄道保存協会、文化遺産信託研究会、全国近代化遺産活用連絡協議会、湘南邸宅文化ネットワーク協議会、ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク

(2) 国際交流事業

①海外保護団体との連絡連携及び情報の交換等、国際交流の推進

本年度も歴史遺産・自然環境の保護・保全を目的とするナショナル・トラスト活動を行う世界各国の各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を努めた。

②交流を図っている団体

英国ナショナル・トラスト(名誉会員)

米国ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

オーストラリア・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ニュージーランド・ナショナルトラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

クィーンエリザベスⅡ世ナショナル・トラスト（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

ジョージア州ナショナル・トラスト（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

フィジー・ナショナル・トラスト（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

バミューダ・ナショナル・トラスト（会員証によるプロパティ相互入場協定締結）

6. その他

（1）テレワークの推進

テレワークによる就業環境を整えるため、就業規則を改定するとともにテレワーク勤務規程を新たに設け、テレワーク勤務の制度整備を行った。また、東京都からの助成を受け、モバイルパソコンの購入やネットワークの構築等を行い、ハード・ソフトの両面から在宅勤務やオンラインによる会議等を円滑に行えるようにした。

（2）新型コロナウイルス（COVID-19）感染症拡大防止に向けた取り組み

緊急事態宣言下においては、東京都外からの通勤者を原則在宅勤務とし、都内在住職員によるローテーション勤務を実施することにより政府から要請のあった出勤者7割減を実現した。同時に、事務所や各保護資産において、検温や衛生管理を徹底するとともにパーティションの設置などを行い、感染症の拡大防止に努めた。

（3）新型コロナウイルスにかかる運営を支える緊急支援募金の実施

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各保護資産を閉館、閉園とし、イベント等も中止したことなどにより、利用者が大幅に減少し、寄付が激減したため、各方面に緊急支援を呼び掛けた。全国の個人及び法人から約160万円の募金が集まった。

（4）事業賛助等の協力要請について

新型コロナウイルスの感染拡大が、当財団の財政に深刻な影響を与えている中、当財団の事業へのご理解やご支援の継続を求めて積極的に依頼を行った。その結果、多くの企業・団体から支援を継続して頂いていた。また、教育、建設、物流関係等幅広い分野の法人にもご支援をお願いし、新たな協力が得られた。

（5）他団体との連携強化

公益財団法人ヒロセ財団、学校法人東京家政学院、公益財団法人日本国際教育支援協会とお互いに連携・協力して事業を推進する協定等を締結した。

IV 登記事項、届出・報告・申請事項

1. 登記事項

2020年6月16日

- ・ 田川博己評議員の退任、高橋広行評議員の就任（2020年6月5日付）
- ・ 久保成人理事・栗田亘理事・柴田耕介理事の退任、久保田穰理事・降幡賢一理事の就任（2020年6月5日付）
- ・ 山科清一監事の退任、佐藤栄治監事の就任（2020年6月5日付）

2. 届出・報告・申請事項

2020年6月24日

- ・ 事業報告等の提出（内閣府）

2020年6月24日

- ・ 理事変更届出（内閣府）

2021年3月29日

- ・ 事業計画書等の提出（内閣府）

参考

アドバイザー名簿 (2021年3月31日現在)

アドバイザー 大塚 陸毅 東日本旅客鉄道(株)顧問

以上1名

顧問名簿 (2021年3月31日現在)

顧問	石原 進	九州旅客鉄道(株)特別顧問
顧問	石渡 恒夫	京浜急行電鉄(株)取締役会長
顧問	泉 雅文	四国旅客鉄道(株)相談役
顧問	大須賀 頼彦	小田急電鉄(株)特別社友
顧問	大塚 雄二郎	大塚化学(株)特別相談役
顧問	大橋 洋治	ANAホールディングス(株)相談役
顧問	尾関 宗園	大徳寺大仙院閑栖
顧問	門脇 邦彦	日本空港ビルデング(株)名誉会長
顧問	柄澤 康喜	MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)取締役会長
顧問	小山 薫堂	放送作家
顧問	小山 正宣	前・(公財)日本ナショナルトラスト理事長
顧問	須田 寛	東海旅客鉄道(株)相談役
顧問	田浦 芳孝	北海道旅客鉄道(株)代表取締役会長
顧問	富田 哲郎	東日本旅客鉄道(株)取締役会長
顧問	夏目 誠	成田国際空港(株)相談役
顧問	根津 嘉澄	東武鉄道(株)取締役社長
顧問	伏見 勝	元・報知新聞社最高顧問
顧問	真鍋 精志	西日本旅客鉄道(株)取締役会長
顧問	MARI CHRISTINE	異文化コミュニケーター
顧問	宮田 亮平	文化庁長官
顧問	宮原 博昭	(株)学研ホールディングス代表取締役社長
顧問	村田 光平	元・駐スイス大使
顧問	山村 明義	東京地下鉄(株)代表取締役社長
顧問	山本 亜土	名古屋鉄道(株)代表取締役会長

以上24名

観光資源専門委員名簿 (2021年3月31日現在)

観光資源専門委員	尼崎 博正	京都芸術大学教授
観光資源専門委員	井手 久登	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	大塚 初重	明治大学名誉教授
観光資源専門委員	河東 義之	小山工業高等専門学校名誉教授
観光資源専門委員	西村 幸夫	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	三隅 治雄	東京文化財研究所名誉研究員
観光資源専門委員	三村 浩史	京都大学名誉教授
観光資源専門委員	宮脇 昭	横浜国立大学名誉教授

以上8名